

令和7年度 第3回 加古川市地域公共交通活性化協議会 議事概要

○開催概要

開催日時	令和7年10月2日（木） 午前10時から午前11時30分まで
開催場所	加古川市役所新館10階 大会議室
出席者	委員21名中18名、オブザーバー4名、事務局7名、傍聴0名
議事次第	1 開会 会議の趣旨 委員紹介 出席状況報告 2 議案 報告第1号 加古川市地域公共交通計画策定調査業務委託にかかる 公募型プロポーザルの実施結果について 協議第1号 「加古川市地域公共交通計画」策定に向けて 協議第2号 アンケート調査の実施について 3 閉会

○議事概要

■ 報告第1号 加古川市地域公共交通計画策定調査業務委託にかかる公募型プロポーザルの実施結果について

＜説明概要＞

第2回活性化協議会での承認を受けて、加古川市地域公共交通計画策定調査業務委託に係る公募型プロポーザルを実施した。公募期間は6月11日から6月25日で2社から応募があり、7月24日にプレゼンテーション審査およびプロポーザル選定委員会を開催した。

選定の結果、契約候補者に株式会社丸尾計画事務所が選定され、8月8日に契約を締結した。

■ 協議第1号 「加古川市地域公共交通計画」策定に向けて

＜説明概要＞

【「加古川市地域公共交通計画」策定の背景と目的】

本市では、平成29年3月に策定した「加古川市地域公共交通プラン（地域公共交通網形成計画）」に基づき、地域公共交通サービスの充実を図っている。

令和2年11月に「地域公共交通の活性化および再生に関する法律」が改正され、将来のまちづくりを見据えた公共交通におけるマスタープランとして地域公共交通計画策定が努力義務化されたこと、「加古川市地域公共交通プラン」が令和8年度末で計画満了となることから、次期計画となる地域公共交通計画を策定する。

【計画策定までの協議会での検討（案）】

令和7年度は、基本理念・基本方針の設定、次年度の検討に向けた目標実現のための施策提案までを検討予定である。

令和 8 年度は、施策体系や事業内容、評価指標・計画目標について検討し、計画案の承認後、パブリックコメントを実施して住民意見を反映し、「加古川市地域公共交通計画」の策定を予定している。

【 加古川市の概要 】

道路網について、東播磨道が令和 7 年秋頃に国道 175 号まで全線供用の予定である。

人口は、令和 7 年で約 25 万人である。人口減少は約 15 年前から始まっており、今後も続いていく。約 10 年後の令和 17 年の人口は、23 万人と予測されている。

75 歳以上の人口比率は、令和 7 年の 18%から令和 17 年には 21%に増加し、自動車を運転しづらい人の割合も増加すると想定される。

加古川バイパスの南側や、JR 加古川線沿線の地域は人口が多い。75 歳以上人口の割合は、加古川バイパスより北側で高い。

鉄道の運行本数は、朝夕のピーク時で、JR 山陽本線、山陽電鉄が 1 時間当たり 13～15 本、JR 加古川線が 1 時間当たり 3 本である。

路線バスは、神姫バスが主に JR の鉄道駅を中心に運行している。市内のバス停で乗降し、「NicoPa（ニコパ）」を使用する場合は、運賃の上限が 200 円である。

コミュニティ交通は、かこバス、かこバスミニ、上荘くるりん号、チョイソコかこがわが運行している。料金は、100～200 円である。

タクシーは、市内を 9 事業者が運行している。

鉄道駅から半径 1 km、バス停から半径 500m を鉄道・バス勢圏とすると、本市の人口の 96%を鉄道・バスでカバーしている。

■ 協議第 2 号 アンケート調査の実施について

【 コミュニティ交通利用者アンケート 】

かこバス、かこバスミニは、調査員が車両に乗り込み、乗客にアンケート調査票を配布する。乗客は車内で回答し、降車時に回収ボックスに投函する。

上荘くるりん号、チョイソコかこがわは、ドライバーにアンケート調査票の配布を依頼する。乗客は車内で回答し、降車時に回収ボックスに投函する。

調査日は、かこバスが 10 月 9 日（木）、かこバスミニが 10 月 10 日（金）で、いずれも始発から終着まで調査する。上荘くるりん号、チョイソコかこがわは、10 月 15 日（水）～10 月 21 日（火）の運行日に利用のある全便を調査する。

調査項目は、乗降バス停、往復利用状況、目的、同行者数、満足度、当該交通利用前後の移動手段、利用頻度、運賃支払方法（かこバスのみ）、個人属性（住所・性別・年齢・免許保有と運転の可否）、よく行く施設としている。

【 市民交通行動アンケート 】

調査対象は、無作為抽出した市内の 70 歳以上の高齢者がいる 5,600 世帯とし、調査票を 1 世帯 3 枚郵送する。①70 歳以上の人、②運転免許のない 16～18 歳、③その他の人の順に回答を依頼し、郵送回収する。調査票は 10 月下旬発送、11 月の回答期限を予定している。

調査項目は、次のとおり設定している。①個人属性（住所、性別、年齢、免許保有と運転の可否、世帯の車の保有状況、外出の可否、障害者手帳の所持状況、自宅からバス停・駅までの歩行可能距離・時間）。②よく行く場所（通院・買い物・通勤通学・その他）ごとの交通手段、外出頻度、出発帰宅時間帯、移動の問題点。③乗継拠点に必要な機能・施設。④「お愉しみの外出」状況、行先と移動手段、外出しない場合はその理由。⑤公共交通への財政支出に対する考え方。⑥自由意見。

<意見・質疑応答>

(田端会長)10 年前の現行計画策定時は、主要幹線は民間の神姫バスが、その補完をコミュニティ交通が担う公共交通分担論を考えていたが、現在では民間バスでは運行が難しいところをコミュニティ交通が代替するという考え方に変わってきている。行政が公共交通空白地域を広げないように民間バスの代替としてコミュニティ交通を運行し、公共交通空白人口は8%から4%に減少した。

今後の公共交通は、生活に必要な最小限のものを公共が担うのか、あるいは交通権を確保するために行政はもっと積極的になるべきか等について、市民交通行動アンケートで調査することとしている。

確認であるが、地域公共交通計画は令和8年度策定としているが、総合計画との調整はどのようなになっているのか。

(事務局)上位計画である総合計画とは、密に連携していきたいと考えている。

(田端会長)交通問題はどの自治体でも課題となっており、さまざまな議論が出てくると思うので、しっかり連携していただきたい。

(秋元委員)この協議会では何を協議し、何を決めるのか。

(事務局)地域公共交通計画策定に向けて事務局が示す資料等についてご意見をいただき、計画案についてご審議いただきたいと考えている。

(西澤委員)資料1に地域別の75歳以上人口が示されているが、10年後を見据えて65歳以上人口も示してはどうか。

(事務局)65歳以上人口も示す。

(小國委員)コミュニティ交通利用者アンケートで、車内で回答するとしているが、難しいのではないかと。調査票を車内で配布して、郵送回収の方がよいのではないかと。

(事務局)現行計画策定時にもコミュニティ交通利用者アンケートを実施し、車内で回答していたしており、今回も回答いただけると考えている。また、後日郵送で回収するよりも、回収数が多いと考えている。

(田端会長)事務局から、時間がない場合は全て回答しなくてもよいと説明を受けている。回答方法は、改善できるようであれば改善していただきたい。

(小國委員)調査日の設定理由を教えてください。

(事務局)かこバス、かこバスミニの調査日は、年間を通じて平均的な移動は秋の平日といわれていることから、今回の調査日を設定している。調査日が1日なのは、予算の関係もあるが、利用者が多いので1日で十分分析が可能だと考えている。

(小國委員)コミュニティ交通利用者アンケートで、利用の問題点を聞いていないのはなぜか。

(事務局)すでにコミュニティ交通を利用している方に回答いただくので、満足度をお聞きし、不満と答えている方に理由を回答いただく設問にしている。

(小國委員)市民交通行動アンケート調査の対象を、70歳以上の高齢者がいる世帯としているが、高齢者と同居していない69歳以下の人の意見は反映されないのではないかと。

(事務局)地域公共交通計画の検討に当たって、高齢者の交通行動を把握することが最も重要だと考えている。全年齢の人の移動については、アンケート調査だけでなくパーソントリップ調査やICカードデータ等、さまざまなデータを用いて把握する。アンケート調査でも、高齢者と同居している人にも回答を依頼しており、高齢者以外の人の移動も把握できるようにしている。

(田上委員) アンケート調査では、障害者の意見を聞くことができないのではないかな。

(田端会長) 障害者団体等との協議の機会があると思うが、その際に協議の議題として挙げていただく等、さまざまな機会でご意見を伺うのも大事かと思う。アンケート以外でご意見を伺う機会を設けていただきたい。

(事務局) 福祉部局等との調整も必要だと考えており、ヒアリング等を別途実施する等、アンケート以外でご意見を把握していきたいと考えている。

(西澤委員) なにかしらの加古川市の地域公共交通の情報や、加古川市がめざす方向性を示して、このことについても意見をお聞きしたいということでアンケート調査を実施してはどうか。

(田端会長) 加古川市がめざす方向性についての意見は、今後別途実施される総合計画策定のためのアンケート調査で取り上げられる内容だと思うため、総合計画のアンケート調査で反映していただき、本協議会と連携することが良いと思うが、調整は可能か。

(事務局) 総合計画の担当部局とも調整を図っていききたいと思う。

(西澤委員) アンケート調査の周知等について、広報や、町内会連合会を積極的に活用した方法も検討いただければと思う。

(事務局) 市のホームページ等を活用して、周知を図っていききたい。

(大辻委員) 丸尾計画事務所にお聞きしたい。10年後の公共交通の姿を具体的に示して、検討を進めていけるのか。加古川市の予算はきびしいと聞いているが、提案された将来の姿が絵にかいた餅にならないように検討を進めていただきたい。

(丸尾計画) 市民や来訪者にとって必要な公共交通を考える必要がある。我々としては、必要なものは必要だと考え、それに必要なお金を誰が出すか、誰ががんばるかを、本協議会委員の方とともに考えていく必要があると思っている。一番大事なことは、通院や買い物等の生活に必要な活動だけでなく、お愉しみの活動も含めて、車がなくても公共交通を利用して楽しく暮らせるということだと考えている。これを基本において、それをどう組み立てていくかを考えていく。これは非常に難しい問題で、実現には高いハードルがあるが、それをこの協議会での検討やアンケートの意見を反映させて一つずつ乗り越えていきたいと考えている。

(田端会長) これまでの交通会議において、公共交通空白地域を作らないということを最も重視してきた。今後、財政支出や路線の評価をしていくが、財政が厳しいからといって、公共交通をカットしていくことは難しい。その妥協点を探っていく必要がある。これが今の現状かと思う。今後、移動の権利を認めるという交通権のことも出てくると思うが、それは、公、民、あるいは協働の可能性も含めて、議論していくことになると思う。

(他に意見、質問等なし)

以 上